

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 04-167673
 (43)Date of publication of application : 15.06.1992

(51)Int.CI. HO4N 1/44
 G04G 15/00
 G06F 12/14
 H04N 1/21

(21)Application number : 02-290452
 (22)Date of filing : 26.10.1990

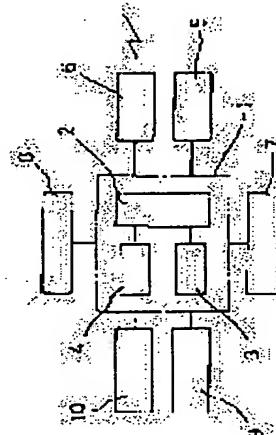
(71)Applicant : MURATA MACH LTD
 (72)Inventor : KUWABARA TETSUYA

(54) FACSIMILE EQUIPMENT

(57)Abstract:

PURPOSE: To enable a transmitter to surely transmit communication contents by setting the time when confidential reception contents stored in a picture memory is automatically erased.

CONSTITUTION: The number of days for automatic erasing is changed by the operation of an operation part 9, so that, for example, automatic erasing is executed in a day from Monday to Wednesday, and it is executed in three days when a user leaves his office on Friday. Then, contents of confidential reception are printed on Monday, and the utilization efficiency of a picture memory 7 is not damaged on weekdays. In such a manner, communication contents of confidential reception are not always automatically erased from the picture memory 7 when one day elapses, and the time when they are erased can be set in accordance with the condition of a receiver. Thus, the receiver surely receives the confidential communication without affecting upon the utilization efficiency of the picture memory 7.



⑨日本国特許庁(JP)

⑩特許出願公開

⑪公開特許公報(A) 平4-167673

⑫Int.Cl.³

H 04 N	1/44
G 04 G	15/00
G 06 F	12/14
H 04 N	1/21

識別記号

3 2 0	K
D	

庁内整理番号

2109-5C
7809-2F
8841-5B
8839-5C

⑬公開 平成4年(1992)6月15日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全4頁)

⑭発明の名称 ファクシミリ装置

⑮特 願 平2-290452

⑯出 願 平2(1990)10月26日

⑰発明者 桑原哲也 京都府京都市伏見区竹田向代町136番地 村田機械株式会社本社工場内

⑱出願人 村田機械株式会社 京都府京都市南区吉祥院南落合町3番地

⑲代理人 弁理士 綱野誠 外2名

(57)【要約】

〔目的〕画像メモリに蓄積した親展受信内容の自動消去を行う時間を設定できるようにして、確実に送信者に通信内容を送信できるようする。

〔構成〕自動消去日数を操作部9の操作により変更できるようにして、例えば月曜日から木曜日までの間は1日で自動消去するように設定しておき、金曜日に会社から帰る時に3日で自動消去するように設定を変更するようすれば、月曜日に親展受信の内容をプリントすることができ、かつ平日には画像メモリ7の使用効率を損なうことがない。このように親展受信した通信内容は1日経過したら必ず画像メモリ7から自動消去されるとは限らず、受信者の事情に応じて消去する時間を設定することができる。これにより画像メモリ7の使用効率に影響することなく、確実に親展通信を受け取ることができる。

【ファクシミリ装置 画像 記憶 蓄積 親展 受信 内容
自動 消去 時間 設定 確実 送信者 通信 内容 送信 日
数 操作部 操作 變更 月曜日 木曜日 1日 金 会社 日
プリント 平日 使用 効率 経過 受信者 事情 消去 影響
親展 通信 受取】

(2)

1

【特許請求の範囲】

親機受信機能を有するファクシミリ装置において、
画像メモリに蓄積した親機受信内容の自動消去を行なう
時間を設定できるようにしたことを特徴とするファクシ
ミリ装置。

2

(3)

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平4-167673

⑬ Int.Cl.

H 04 N 1/44
 G 04 G 15/00
 G 06 F 12/14
 H 04 N 1/21

識別記号

府内整理番号

320

D

2109-5C
 7809-2F
 8841-5B
 8839-5C

⑭ 公開 平成4年(1992)6月15日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全4頁)

⑮ 発明の名称 ファクシミリ装置

⑯ 特願 平2-290452

⑰ 出願 平2(1990)10月26日

⑱ 発明者 桑原 哲也 京都府京都市伏見区竹田向代町136番地 村田機械株式会社本社工場内

⑲ 出願人 村田機械株式会社 京都府京都市南区吉祥院南落合町3番地

⑳ 代理人 弁理士 綱野 誠 外2名

明細書

1. 発明の名称

ファクシミリ装置

2. 特許請求の範囲

親戻受信機能を有するファクシミリ装置において、画像メモリに蓄積した親戻受信内容の自動消去を行なう時間を設定できるようにしたことを特徴とするファクシミリ装置。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明はファクシミリ装置に関し、特に親戻受信機能を備えたファクシミリ装置に関するもの。

(従来の技術)

ファクシミリ通信において、発信者が特定の個人にのみ通信内容を知らせたい時に、親戻通信が利用される。発信者が親戻通信によりファクシミリ通信をすると、通信内容は直ちにプリントされることなく親戻受信をした

旨のみをプリントし、特定の個人が予め登録してある暗証番号を入力することにより、画像メモリに蓄積してあった通信内容をプリントアウトすることができる。

(発明が解決しようとする課題)

ファクシミリ装置に内蔵されている画像メモリの容量には制限があり、長時間にわたって親戻通信画像に画像メモリを占有されると、送受信の機能に支障をきたすことになる。そのため、親戻受信をした後1日経過すると自動的に蓄積した画像メモリの内容を自動消去し、発信者には不連通知を返して、画像メモリの効率化を図るようになっていた。

しかし受信者は事情によりファクシミリ装置から長い時間離れていなければならないことがある、プリントすることなく通信内容が自動消去されてしまうことが起こり得た。内容が自動消去されると送信内容は届かないのでは再通信が必要であり、また不連通知は必ず発信者に届くとは限らず、通信の齟齬を生じ

(4)

特開平4-167673 (2)

ることがあった。

画像メモリの容量を大きくすれば課題は解決可能であるが、大容量の記憶素子は高価であり、親戻通信のためのみに搭載するのは経済的であるとは言えなかつた。

本発明の目的は、確実に送信者に通信内容を送信することのできる親戻受信機能を有するファクシミリ装置を提供することにある。
 (課題を解決するための手段)

上記目的を達成するために本発明は、親戻受信機能を有するファクシミリ装置において、画像メモリに蓄積した親戻受信内容の自動消去を行なう時間を設定できるようにしてファクシミリ装置を構成した。

(作用効果)

本発明は上記の構成としたので、次のような作用効果を要する。

本発明に係るファクシミリ装置によると、親戻受信した通信内容は、1日経過したら必ず画像メモリから自動消去されるとは限ら

を制御する。

5は画像信号の符号化・復号化を行なう符号復号器であり、6は電話回線に接続される通信制御装置である。7は画像信号を記憶する画像メモリであり、一般的には256kのDRAMで、A4用紙10枚程度の画像を蓄積することができる。8はプリンタ、9はダイヤルを含む操作部、10は液晶画面のような表示部である。

まず自動消去日数の設定手順につき第2図のフローチャートを参照しつつ説明する。

《ステップ1》

自動消去日数を設定しようとする者は操作部9を操作し、自動消去日数変更機能を呼び出す。

《ステップ2》

自動消去日数を変更してよいか、表示部10に表示される。変更を要しなければそのまま入力して終了する。

《ステップ3》

す、受信者の事情に応じて消去する時間を設定することができる。

よって本発明に係るファクシミリ装置によれば、ファクシミリ装置から長期間離れるような場合であっても、ファクシミリ装置を扱うことのできる時間まで自動消去を行なわないように設定しておくことができる。確実に受信者に親戻通信の内容を知らせることができ、また特別な事情のない場合には通常通り1日で自動消去するように設定して、ファクシミリ装置の他の機能に障害とならないようにすることができる。

(実施例)

以下図示の実施例について説明する。

第1図は本発明に係るファクシミリ装置の要部の構成を示す回路ブロック図である。

同図において、制御装置1はCPU2、ROM3、RAM4からなり、ROM3に記憶されたプログラムをRAM4に読み出し、CPU2に順次実行させてファクシミリ装置

変更する場合には操作部9の操作により日数を指定し、指定された日数はRAM4に記憶され、設定を終了する。

例えば、会社で金曜日の夜に親戻受信した場合、自動消去日数が1日に固定されていれば、土曜日の夜には親戻受信した画像メモリ7の内容が自動消去され、月曜日に会社に来ても内容を知ることができない。また常時3日と固定されていると、このような場合にも親戻通信を受け取ることができるが、送受信が頻繁に行なわれる平日には、親戻通信の内容が画像メモリ7を占有するために、画像メモリ7の使用効率が悪化してしまう。

しかし本実施例のように自動消去日数を変更できるようにすれば、例えば別曜日から木曜日までの間は1日で自動消去するように設定しておき、金曜日に会社から帰る時に3日で自動消去するように設定を変更するようにすれば月曜日に親戻受信の内容をプリントすることができ、かつ平日には画像メモリの使

(5)

特開平4-167673 (3)

用効率を損なうことがない。

次に親展送信の受信の際のファクシミリ装置の動作につき、第3図を参照しつつ説明する。

《ステップ4》

発信側からのベル呼出しにより、回線が接続される。

《ステップ5》

受信信号の符号により、親展通信か否かを判断する。親展通信でなければ通常の受信を行なう。

《ステップ6》

親展通信であれば、親展受信を実行する。具体的には、受信内容は直ちにプリントせずに画版メモリ7に蓄積し、併せて親展の宛名をRAM3に記憶する。

《ステップ7》

RAM3に記憶してある自動消去指定日数を参照し、該過信内容を画版メモリ7から消去すべき日時をRAM3に記憶する。

消去日時になった場合には、該親展通信の内容を画版メモリ7から自動消去する。またプリントアウトの終了した親展通信の内容も自動消去される。自動消去後は待機状態を維持する。

以上のように、本実施例に係るファクシミリ装置によれば、画版メモリ7の使用効率に影響することなく、確実に親展通信を受け取ることができる。

以上本発明の実施例について説明したが、本発明は上記実施例に限定されるものではなく、本発明の要旨の範囲内において適宜変形実施可能であることは言うまでもない。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明に係るファクシミリ装置の一実施例の要部の構成を示すブロック図、第2図は同じ実施例における自動消去日時設定の過程を示すフローチャート、第3図は親展受信の過程を示すフローチャート、第4図は親展受信をプリントする際の過程を示すフ

《ステップ8》

親展受信した旨を宛名とともにプリンタ8によりプリントする。

第4図は親展受信後のファクシミリ装置の動作を示すフローチャートである。

《ステップ9》

ファクシミリ装置は待機状態にある。待機状態において、着信や送信等があれば直ちに実行することができる。

《ステップ10》

待機状態中に、親展通信内容をプリントするように操作部9が操作されれば、該通信内容をプリンタ8によりプリントアウトする。具体的には、親展通信印刷機能を呼び出し、暗証番号を入力する。

《ステップ11》

キー入力がなければ、該親展通信を消去すべき日時に近したか否かをカウントする。追していなければ待機状態を維持する。

《ステップ12》

ローチャートである。

1...制御装置、2...CPU、3...ROM、4...RAM、7...画版メモリ、8...プリンタ、9...操作部、10...表示部。

特許出願人 村田板橋株式会社

代理人 納野誠

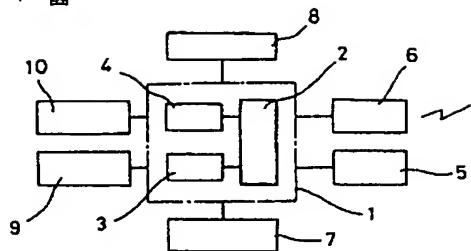
同 納野友康

同 初瀬俊哉

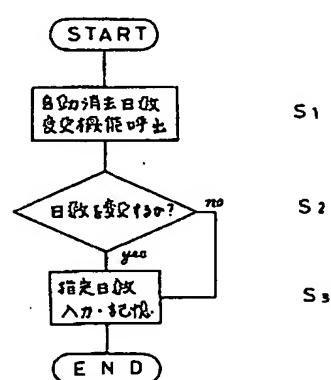
(6)

特開平4-167673 (4)

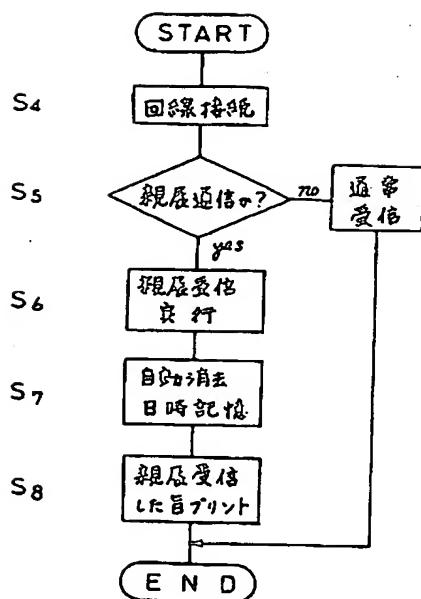
第1図



第2図



第3図



第4図

